

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成20年5月20日

事業所番号	2775004902	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム サニーハウス	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	東大阪市御厨南2丁目6番11号 電話 06-6618-6262	評価調査日	平成 20 年 5 月 10 日
		評価確定日	平成 20 年 5 月 23 日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日	建物の構造	鉄筋コンクリート 造り
ユニット数	2 ユニット		利用定員数
職員数	12人	常勤	9人
		非常勤	3人
		常勤換算	9.5人
		3階建ての(2階~3階部分)	

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	4万5千円	その他の経費 (月額)	2万9千円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有	償却の有無	無	
	12万円			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		4万5千 円	

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	12名	男性	0名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢 平均	82才	最低	67才	最高	94才
(5) 協力医療機関名	菰池歯科診療所				
	医療法人 八戸の里病院				

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

毎日の交代時に管理者も含め、職員間で情報伝達には時間を掛けて実施している。利用者の定員が1ユニット6名で、職員が愛情を持って丁寧に毎日の介護に当たっている。その上、職員と利用者との日常の会話もよく行われており、職員の研修についても事故対策・感染症対策等の委員会を組織し、日常介護の合間に分担した各職員による話し合いの検討を繰り返し、その結果を全職員の共有情報としてい

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	職員の研修は、レベルアップを図る目的でテーマを、虐待防止、事故対策等に分化し、問題ごとに適宜、小委員会を設け、検討は同じ勤務時間帯で顔を合わせた業務の合間に、短い時間でも積み重ねておき、職員全体会議で発表して共有情報としている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	昨年の評価以後、職員会議等で問題点の解決について、現状を把握した上で話し合い、対策を日常の介護に活かして来た。今回も、各項目ごとに話し合いの中から今後の取り組みを検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	第1回の運営推進会議を平成19年9月8日に開催し、以後12月、2月、5月と開催して来た。主な討議内容は、ホームの日常活動の報告と説明で、質疑応答も実施して来たが、話題が続かずにいるので、今後の地元自治会との交流の進め方については検討課題としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月、利用者ごとに、ご家族に対し1ヶ月間の詳細な報告書を管理者が作成して発送している。又、来所された際は、担当職員が付き添って対話をしているが、ご意見、苦情は殆ど無く、苦情箱も利用されていない。ご家族のアンケートによると、利用者の人数が2, 3階共、6名で、標準的なグループホームホームの9名より少ないのを評価する方が居られる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営推進会議によって自治会長さんのご配慮で、地元の方々との交流が進められつつあり、現在はホームの誕生会に紹介していただいたボランティアの方々には、お手伝いをして頂いている。地元の方々との交流は今後の課題としているが、地域の信頼と安心を頂いている八戸の里病院を母体としているので、利用者も同じように安心しておられる。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意向を尊重し、創意工夫と努力によって、多様なサービスを提供するよう理念を掲げている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の職員の交代の申し送り時に、理念の徹底と実践を図っている		
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営推進会議の開催により、地域の自治会との連携が強化されつつある。	○	地元との交流にきっかけが与えられたので、よりご近所の方々との交流を双方の行事等を介して進めて欲しい
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価以後、職員と問題の協議を重ねて改善に取り組んできた	○	改善には停滞はなく、日々の見直しと、検討を今まで通り、職員全員の知恵を出し合って励んで欲しい
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	地域包括センターによる運営協議会を、平成19年9月8日に第1回を開催し、以後、5月までに4回開催した。協議内容は、始めはホームの日常生活の説明、質疑を行ってきた。今後に期待したい。		
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの職員との連携は出来つつある		市役所の担当課へは、書類の提出時に面談し、挨拶程度からでもよいので、徐々に親しくなるように努めください
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	管理者が、毎月、ご家族宛に1ヶ月間の利用者の様子を詳しく文書としてお届けしている。来訪時には担当職員、管理者が面接している		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートでは特にご不満、苦情は記載されていないが、面談時の提案、不安については、すぐに対応している。そして、今後とも苦情、提案を出していただけることを検討課題としている。	○	利用者と、ご家族との関係にも色々あって、ホーム側としての意思疎通の取り方で、個々の事情に合わせる難かしさがあるようですが、気長に取り組んでください

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9	18	<p>○ 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		退職者が出た際の新入職員への引継ぎについては、既存職員がしばらくの間、一緒に介護に当たっている

5 人材の育成と支援

	10	19	<p>○ 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		新入の職員は研修計画を立てて行っている。外部研修や地域での研修会にも可能な限り参加させている
	11	20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている</p>		地域包括センターの指導により、グループホーム同士の交流を検討している

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12	26	<p>○ 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		入居の相談があれば、納得されるように説明や、試し入居なども行っている。その上、最初の1ヶ月は、暫定の介護プランを作成して様子を見ている
--	----	----	--	--	---

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13	27	<p>○ 本人と共に過ごし、支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		職員は見守りで、本人の可能なことはご自分でやってもらい、また手伝ってもらっている。反対に職員は利用者から、家事的な事を教えてもらっている
--	----	----	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14	33	<p>○ 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		一人ひとりから生活上のことを聞き出し、できる限り、それに添えるような住環境を提供できるようにしている
--	----	----	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15	36	<p>○ チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		担当職員、ケアマネジャー、管理者でカンファレンスを行い、場合によっては、ご家族にも参加して頂いて介護計画を作成している
--	----	----	---	--	---

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本は6ヶ月としているが、場合によっては1週間、1ヶ月でカンファレンスを行なっている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今迄のところ、ご家族からの要望に応じて、適宜、支援させて頂いた		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	月2回の母体法人の内科医師の往診、月4回の歯科医師の往診を受けて頂いている		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアや重度化した場合については利用者、ご家族とも常々話し合いを行っている。又、将来方向についてもご家族と話しあっている。職員とのカンファレンスも出来ている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、日常的に職員と取扱いについて話し合っている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の介護であるように業務マニュアルは配慮している		職員ペースにならないよう、今後とも利用者本位であるように検討を続けて欲しい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階厨房への食事の引き取り、盛り付けや、下膳を一緒にやってもらっている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		入浴を昼間の午後だけではなく、夜の入浴も実施している。検討課題もあるが喜んで頂いている

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		掃除、炊事等について、個々に手伝いをしている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		天気が良ければ、近所の散歩を楽しんで頂いているが、全員が散歩できるよう検討している

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		1階がデイサービス事業所で、常時人の出入りがあるので、建物構造上、鍵の開放へは課題が多いが、引き続き検討している
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		災害時の避難については、消防署の指導を受けており、年2回避難訓練を実施している。地域の連携については、優先検討課題としている

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		医師の指導を得て、個人毎の摂取量などを定め、活用している
--	----	----	--	--	------------------------------

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		新築の建物なので明るく換気、室温等も、適宜、調節されている上、季節感の演出も行われている
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室は、個人ごとに家具類を持ち込んで利用しているが、多くはスッキリとした感じの居室として、居住している